

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気の中で、個人の尊厳を大切にしその人らしい生活の場を作っていけるよう支援します。ひとりひとりがホームの主人公としてすこやかに主体的な生活を送れるよう支援します。ということを念頭に置きスタッフ全員が入居者の生活支援に取り組んでいる。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は理念を共有しあい、個々の入居者に対してのより良いケアに向け、申し送り、ケア会議などを開き支援方法について検討しています。	○	今後、ユニットの目標も作り、ホームでの入居者の支援に役立てていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	定期的にホーム新聞などを作成し、家族会で食事会を設けたり、生活状況、運営状況なども報告しています。又、地域の方へは、民生委員の会議等へ出席したり、散歩等の外出時に地域の人々と会話することで理解して頂けるよう心掛けている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域での行事に参加させて頂いたり、グループホームの庭を開放し地域の方との交流に勤めています。小学校、幼稚園にも参加して交流会を行っています。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域内の消防訓練、老人会、自治会などに働きかけ、他の行事等を率先して参加して頂き、交流を深めるように努めています。		

あいの里悠々 なぐさ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成の貢献としてボランティアや実習生の受け入れも積極的に行ない、週に1回介護予防教室を開催し、地域住民が参加できるようにしている。	○	現在も、もようしを実施しているが、もっともようしを増やして地域の人に参加して頂けるように取り組んでいきたいと考えています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価での取り組み方、問題点などケア会議にて職員間で話し合いの場を設けケアの質向上に努めています。	○	今後、外部評価を受けることで学んだこと、気づきを取り入れ、会議等でスタッフ同士が話し合うことで、より一層のケアの質向上を目指していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は2ヶ月に1回開催し、グループホームの活動報告、利用者支援の取組み、地域への働きかけ等を民生委員、家族等を交え意見交換をして、管理者会議を通じ日常のケアに繁栄できるよう取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村と連携をとり、自施設のケアの方針、ケアする中でのトラブル、介護保険制度について等、常に報告することにより、自施設と市町村との透明性を図っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度についての情報等、市町村などでパンフレットを収集し職員間で共有することで知識を習得し活用できるよう努めています。	○	入居者の方で利用されている方がおられるので、もっと知識を習得し書く職員にも知識を習得する勉強会などを行いたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者への声掛け、コミュニケーション等が雑になり、言葉の虐待とならないよう常に管理者会議、スタッフ会議も含め話し合っている。又、入浴時、着替え時等、入居者の身体状態を観察し、虐待を見過ごすことがないように努めています。		

あいの里悠々 なぐさ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書など入居時に十分説明を行ない、家族さんからの要望、疑問点など不安な点を聞き、納得した上で入所するようにしています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入り口に苦情意見箱を設けています。又、家族の方の面会時にコミュニケーションを図り苦情、不満、心配事等の訴えを聞き取りを行なうようにしています。意見等がある場合については、入居者に反映できるよう上司スタッフと共に相談しながら取り組んでいる。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に日々の活動等新聞などの便り等を通じて報告しています。日常生活の様子、四季折々の外出の行事が伝わる写真を送付したり、ホームに掲載したりしています。また、個々にも電話連絡や、面会時など積極的に家族に係わり合いを持つことで報告を行なっています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の会を実施し、家族間でのコミュニケーションを図り、ホーム内での食事会、外食などの機会に意見、不満、苦情等を聞き取りを行ない会議等で話し合うことで運営に反映できるようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回全体会議を実施し、ユニット全体で話し合いを持つことで意見交換、問題の提案などを聞く機会を設けています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務時間は1ヶ月のシフトにて勤務しているが、行事、緊急時等スタッフが多く入るときは調整しながらスタッフを増やしたりして調整している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動時の新職員に対して指導援助をして入居者が慣れ、混乱しないように、職員同士が協力し合い支えあいながら支援を行なうようにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホーム連絡会の参加、認知症実践者研修、リーダー研修、管理者研修などを通じ育成に力を入れています。又、社員の介護に関する資格等の取得にも金銭面での援助を行なっています。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会の意見交換会を通じ同じグループホームケアに携わるものとしての意見交換を行なっている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者がスタッフと常時話し合いの機会を持ったり、適宜休憩時間やスタッフ同士が話し合う機会・時間を持つことでスタッフがストレスを溜めながら仕事をしないようにしている。また、定期的に交流会も開催している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>自己申告書及び人事考課表を用いて各職員の意見や要望を運営者が把握できるようにしている。またスタッフが向上心を持って勤務に打ち込めるよう、運営者が都度ヒアリングを行ない向上心を持って仕事に打ち込めるよう支援している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居時本人との面談を行ないコミュニケーションをとりながら信頼関係を築き本人の日常生活を送る上で不安なこと、ニーズを把握するように努めています。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居時、家族の方との十分な時間をかけての自宅訪問での面談を行い、家族の方との話し合いをする中で不安なことや求めていることを把握しつつ、家族とスタッフがお互い協力し合い支援することで信頼関係を築けるように努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、家族の想いや状況等を確認し、可能な限り柔軟な対応を行ない改善に向けた支援の提案、適切なサービスを提供できるようにしています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームの行事に参加されたり、家族の方とホームを見学、又は事前にホームで日中過ごされたりと職員や他の入居者の方と馴染みの関係を築きながら安心して生活して頂けるように努めています。また、法人のサービスを継続的に利用されている方や、地域住民を積極的に受け入れることで、入居者に安心した日常生活を送ってもらえるよう心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の今までの生活歴、病歴などを知り人生の先輩であるので共に日常生活の中で支援するだけでなく、生活の知恵等をスタッフが教えてもらったりしながら共に支えあい日常生活を送っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員と入居者家族がコミュニケーションを図りホームでの生活状態など報告することで、入居者の状態を家族と共に共有し、理解を得ながら共に入居者の生活を支えていけるよう声掛けを行い実施していただいている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の方の介護でのストレスの軽減に努め、心のリフレッシュを行い、ストレスを軽減することで入居者の方と、家族が良い関係が良い関係になる様に工夫しています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方・知人・新世紀の方が面会に来られたときは、ゆったりと入居者の居室で過ごして頂いたり、ホームの食事、おやつ等一緒に食べられたり、同じ時間を過ごしています。買物などで出かけたときなど馴染みの場所をドライブして昔を思い出して頂いています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士での共同作業、趣味、レクリエーションの時間を作り、入居者同士がお互い支えることが出来る雰囲気作りに努めている。入居者同士互いに居室訪問等の援助も行なっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ホームへの面会に来られたときは今までどおりの対応を行っています。又、ホーム内での行事などにも参加してもらえるように連絡・調整を行なっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の日々の関わりあいの中で、表情、言動から想いを推測したり、入居者の意思の把握に努め、本人にとってどのように暮らすのが良いのかを家族と共に検討している。	○	『認知症だから可能性がない』と決めつけるのではなく、職員全員が入居者ひとりひとりの日常生活における可能性を求め、本人の想いに応えられるようになるために、今後も話し合って行きたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の書式を活用しながら、生活暦、環境、好きな食べ物、趣味、特技やサービス利用に至った経緯等を本人や家族の訪問時に聞き取り少しずつ把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	暮らしの流れに沿って本人の状況を総合的に把握し出来る事を維持・向上に努めながら、本人のペースで安心して生活できるよう努めている。	○	今もっている力を維持しながら、声掛けコミュニケーション等に趣きを置き、新たな生活場面に生かすことが出来るようチームで話し合っている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃の関わりあいの中で、想いや意見を聞きプランに反映させている。職員で意見交換・モニタリング・カンファレンスの機会を持ちプランに活かしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行なっているが、状態が変化した場合、本人・家族の要望に応じてヒアリングし見直しを行なうことで必要時に応じ新たなプランを作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに食事、排泄等身体状況及び日々の生活状況、本人の言動等の記録を行なっている。スタッフがいつでも確認できるようにしており勤務開始前の確認を義務付け、情報を共有し、日々の支援やプランの見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、他の事業所の訪問看護ステーションの訪問をしている。又、ユニット同士で交流したり、デイサービスとの交流をしながら生活しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員をはじめ地域の交番所、消防の方の訪問と、小学生の慰問等をしていただき、地域で協力しながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の前の担当ケアマネジャーと連携を図って意見交換をしている。他のサービスでは本人の体調に応じて、訪問理美容、訪問看護サービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護を使用している利用者さんは現在居ない為利用していないが、オムツ等の支給、運営推進会議等で地域包括センターと協力している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、本人及び家族の希望を優先して主治医に依頼し定期的な訪問往診や総合検診を施行しています。受診時職員介助にて日常生活状況を主治医に申し送り、診察の結果を都度家族の方に報告しています。		

あいの里悠々 なぐさ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の個人情報は外部者が見えない鍵のかかるところに保存しています。声掛け、コミュニケーションはひとりひとりを尊重した支援をできるよう常にスタッフ同士が話し合いながら支援を行なっている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	入浴、食事の時間は個人の希望にあわせて自由に行なっています。スタッフと入居者が何でも話し合える雰囲気、声掛けを行なっており入居者の自己決定ができるように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを大切にし支援を行なっている。又、入居者が望んでいる暮らしができなくても、できる限り本人の希望に近づけていくことで、入居者が満足して過ごしてもらえることができるよう支援している。	○ 認知症上の進行や、問題行動により入居者全ての希望に沿って支援できないが、長い時間を掛けて、その人を知ることによって本人の希望に沿って支援をしていければと考えている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	日常生活では、生活する上でメリハリがつくように着替えを行なっている。又、洋服の種類については入居者の方に選んでもらい行なっている。理美容に関しては、入居前から通い慣れた美容室に行ったり、訪問理容をしてもらったりして本人の希望を尊重している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立ではスタッフが決めないで、できるかぎり入居者に意見を聞きながら買い物に出たりその場その場で決めている。又、疾病を持った入居者にはスタッフが出来る範囲内で支援を行なっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	煙草、飲み物、おやつ等の中で危険な物、生もの等は腐る恐れがあるのでスタッフが保管しているが、主治医、家族に話し合いを持ちながら継続的に入居者が継続的に嗜好が楽しめるように支援している。	

あいの里悠々 なぐさ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の多い方には、排尿チェック表を作成し排尿パターンを参考にしてトイレ誘導に努めています。パットなど使用量をチェックし1日の使用量把握に努めています。毎日の健康チェック表には排便チェックを記入し、支援を行っています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は人為配置の都合で昼間の入浴となっており、希望する時間を入居者に聞いたりして支援を行なっている。又、夜間入浴を希望された時は、状況に応じて支援を行なっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間の関わりを大切に活動を増やしたりしながら昼夜逆転しないよう配慮している。夜間眠れないときは、スタッフとお茶を飲んだり、安心の声掛けをする事でリラックスして過ごして頂くようにしている。本人の意思に沿って自由にして頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔の懐かしい食べ物など職員と一緒に作り、畑仕事、洋裁、編み物など入居者の趣味にあわせ支援を行なっている。又、職員と一緒に趣味等おこなって方法が分からない場合は入居者から教えてもらい快適に日常生活を送ってもらっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額の小遣いは持って頂いているが、物盗られ妄想など、利用者同士のトラブルもあり、今は持ってもらっていない。買物時など入居者の方にお金を渡し、立替えなどを行ない希望に応じ好きな物を購入している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者が生活習慣として行なっている中庭の散歩、畑仕事と個々の個性を活かした外出支援を行なっています。又、ドライブ、外食、買物など個人の健康状態を配慮して支援を行なっています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	四季折々の外出支援に努めています。日頃で掛けられない場所、季節感を満喫できるような場所を選び、外出支援に努めています。また、家族も一緒に外出する場合もある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が自由に家族及び知り合いの方に、電話をしたり、手紙を書いて郵送したりできるように支援しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居者さんと一緒に食事、お茶やおやつを楽しんで頂けるように支援しています。その為、家族の方の面会する機会も多くスタッフとお互い協力しながら入居者の方を支えています。又、家族会などでは家族がほぼ全員とっていい程、積極的に参加して頂いたりしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、身体拘束することによる入居者のストレス、機能レベルの低下等スタッフが理解しています。又、自由に入居者の方が動け、転倒等のリスクが伴わないよう、スタッフが気配り、目配りを行なっています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本理念として、鍵の掛けないように徹底しています。入居者の中に、徘徊及び帰宅願望等ある入居者の方については、スタッフが声掛けコミュニケーションを行ない、入居者のストレスを軽減したり、違うことに目を向けることによって訴えを軽減したりしています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、常にリビングで生活する入居者の方が多く、入居者とスタッフが関わる時間を増やすことで、入居者の体調の状態把握に努めている。又、プライバシーや自尊心を傷付けないような、さりげない声掛けを心掛けている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全て、危険な物をスタッフが取り除くのではなく入居者の状態により、石鹸及び危険物に関してはケースに応じた対応をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ケア会議の中で今月の事故報告をとりあげ、再発を防止する為には、どの様な声掛け、支援を行なったらよいか随時検討会を行なっている。		

あいの里悠々 なぐさ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	グループホーム連絡会で救命救急法の参加したり、救急のマニュアル本を読むことによりスタッフが対応できるようにしている。又、夜間の救急時等、救急に病院に行ったときの連絡・対応方法をスタッフが目に付くところに貼っており、周知徹底している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署から来て頂き、防災訓練を行ったり、避難通路の確保をおこない、消火器、非難器具の使用法の講習会をしている。又、業者による防災設備の点検を定期的に行なっている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	グループホームに入居時の契約及び重要事項説明時に必ずリスクに関しての説明を入居者及び家族に説明を行ない納得した上で入居して頂けるようにしている。又、入居中の状態変化によって新たなリスクが生じた場合には、スタッフ、家族、主治医も含めて話し合いを持つことで、家族に理解を得ながら入居して頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック、排泄のチェック、入居者の顔の表情、訴え、行動等をスタッフが観察することにより、入居者の状態が変化した場合については、主治医及び家族に相談し医療機関に受診したり、往診に来てもらったりしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の一覧表を作成し、スタッフが目に付く場所に保管するようにしています。薬の辞典を購入し、効力及び副作用について勉強できるようにしている。又、入居者の服用時においてもスタッフと入居者がお互い確認することにより、誤薬等ないようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	入居者の方ができるかぎり自然排泄できるよう、水分摂取を積極的に行なったり、散歩等の運動を行なったりしながら支援しています。又、個人の排便一覧表を作成して管理をしています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後には、歯磨き等残渣物のないように1日3回、口腔ケアを行なっています。		

あいの里悠々 なぐさ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎食後チェックし記録をしている。水分は、その都度摂取してもらっている。現在は居ないが、水分摂取等に問題がある場合には記録に残すようにしている。又、水分拒否される入居者には、入居者が飲みやすいスポーツドリンクや紅茶など味がついているものを好まれるので本人の好みに応じて支援をしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルがあり実践している。日常的には、入居者の手洗い、うがい等を必ず実施し、外部からの感染源を断っている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具はそれぞれ消毒を行ない、台所や水廻りの衛生管理、清潔保持は十分に行き届いている。食材も新鮮で安全なものを使用し、入居者が買物に行って買ってきた生ものに関してはスタッフが保管し、管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	立地条件として、家が少ないがバードウォッチング、散歩等で施設の庭を利用して頂いたりしながら、必要時には施設の利用して頂いたりしている。又、玄関まわり、テーブルには季節の花を置いたり、入居者の写真及び入居者の書いた絵画などを玄関まわりに貼ったりして、入居者の家族、知人にも気軽に訪問しやすい雰囲気に徹している。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に炊事の盛り付け等をおこなったり、食器を一緒に洗ったり、掃除、ゴミ捨て等をスタッフと一緒にこなすことにより、ここは家だという意識を高めてもらえるような工夫をしている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来る限り画一的、効率的な支援にならないよう、入居者の個性を大切にしながら、居室、リビング等において自由に日常生活を送っている。		

あいの里悠々 ながさ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	、居室においても入居者家族に協力してもらい馴染みの家具や衣類、写真等を取り入れている。又、入居者の好みや使い慣れた物品なども常時持ち込み可能な状態にしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床後、換気を行ったり、掃除の際には窓を開けたりしています。暑すぎず、寒すぎずをスタッフが配慮しながら夏にはクーラー、冬にはエアコンを活用し快適に過ごして頂き、入居者の状況に応じて調整していますが、入居者の認知症状により換気する為、窓を開けても閉めてしまう入居者の方がいるので、難しい面はあるが都度スタッフが声掛けを行なっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、ベランダ、入浴場など、ホーム内には手すりがあり入居者の自由に日常生活を送れるようになっている。又、身体機能のレベルが低下したときには、スタッフと一緒に生活リハビリや体操を取り入れ、歩行器等を使用しながら身体機能の維持・向上に努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	掃除・炊事・洗濯物畳みを職員と一緒にしない持っている能力を十分に使っています。困惑したときは、入居者の話を傾聴し、じかんをかけてゆっくり解決するようにしています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りには芝生に藤棚とその下にベンチがあり天気の良い日には家族も踏まえゆっくり休憩できるようにしています。ベランダにはプランターに球根やプチトマトを入居者の方と一緒に植えたりしています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

あいの里悠々 なぐさ

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームが地域の中で根付いていく為には、入居者、家族を含めての交流が大切であると感じる。現在、夏祭り、餅投げ、小学校との交流会を含め参加をしているが、より一層地域に溶け込む事の出来るホームとして、地域の人々が認知症高齢者の理解を得られるような啓発活動を行なっていきたい。